

麻酔科（手術室）

● スタッフ（2021年10月1日現在）

診療科長 内野 博之
 医局長 齊木 巖
 病棟医長 関根 秀介
 外来医長 福井 秀公

医師数 常勤 41名
 非常勤 20名

● 診療科の特徴

当科は手術当日の麻酔管理だけでなく、術前のリスク評価から術後疼痛管理等にかけ、周術期を通して管理する科です。当院では、年間約6000例の手術に対して術前から術後と継続した管理を行っています。どのように手術予定患者様に対応しているか、その一部をご紹介します。

- ▶ 術前評価外来：近年ではリスク評価が重要視され、麻酔科管理症例のほとんどが術前評価外来を受診されています。手術数増加に対応すべく術前評価外来枠も増加させ術前早期の受診により問題点を抽出し、追加検査やカンファレンスの必要の有無などを総合評価しています。早期に問題点を抽出することで、より安全に手術を受け頂くことが可能です。また、受診前の全身麻酔説明用DVD視聴により、“すごくわかりやすく、手術に向けてとても安心しました”などの評価を頂いております。受けて頂く手術に対して患者様に最適な麻酔方法を説明可能という点を主治医の先生方にも理解して頂いた、ということが術前評価外来受診数の増加に繋がっていると自負しております。
- ▶ 術前カンファレンス：術前評価外来で抽出した問題点や直接主治医の先生方にご相談いただいた症例などには、担当麻酔科医さらに上級医による術前カンファレンスを頻繁に行っています。更に重症症例については、関連する複数科の先生方に集まって頂き、担当各科からの見解を伺った上で周術期管理検討を行うことも稀ではありません。具体的な手術の施行方針に則して、想定し得る合併症などへの対応策を講じることで患者安全管理の向上に寄与しています。
- ▶ 誤認防止の徹底：患者や術式等の誤認防止対策としてWHOの術前チェックに準じて、入室前の本人および手術部位等の確認、入室後のサインイン（患者確認のみならず、アレルギーの有無や準備血などの確認も主治医とともに確認します。）、執刀前のタイムアウト、帰棟前のサインアウトと安全対策を徹底して行っています。また、タイムアウト時にはSSI（手術部位感染）予防のため個々に対応した感染対策を確認しています。
- ▶ 術中患者管理：医療の進歩は日進月歩、術式の変遷に合わせた麻酔方法の考慮は当然必要となります。この場合も術前に執刀医との入念な打ち合わせが行われます。一般的な術中モニタリングの進歩も著しく、術中安全管理に必要と考えられる方策を積極的に取り入れ

ています。また麻酔科医室および麻酔科モニター室では全室の生理モニターや、術場・術野が監視できるシステムを設備しております。加えて、各部屋に設置されております院内コールを利用し手術室全部屋同時に緊急事態を知らせるコールを設置し、予期し得ない急変にも前述した設備とともにすぐに対応できるようになっております。

- ▶ リカバリールーム：手術室内で抜管された患者様は安全確認後、全員リカバリールームでの術後観察を経て帰棟しています。必要に応じて鎮痛薬や制吐薬などの追加投与を行います。手術部から病棟まではエレベータ移送となるので、搬送中のトラブルを未然に防ぐチェックポイントとなっております。
- ▶ 急性期連携：重症例は術前から当科集中治療部と連携し、併存するリスクや想定され得る病態に対して準備し術後管理までを一連の流れとして診療を行っています。また前述した各診療科との術前カンファレンスにも集中治療部は参加し、術後においても各科とのカンファレンスを行い連携することで最大限の治療を行える体制を構築しています。また、各科とも連携し年間500件以上の緊急手術を施行しております。
- ▶ 術後回診・術後痛緩和：手術後に病室を訪問して、痛みや合併症について診察をします。痛みを我慢する美德は、いまや手術後の患者さんには当てはまりません。術後痛の存在は患者さんの苦痛を増すばかりか創部修復を遅らせるなど様々な合併症を引き起こす原因にもなります。持続硬膜外ブロックや超音波ガイド下神経ブロックの施行、各病棟への啓蒙を経て経静脈的鎮痛法であるIV-PCAの普及に至り、術後鎮痛対策の幅を広げて来ました。
- ▶ 初期研修医教育：朝礼時に麻酔科研修を行う研修医向けのレクチャーを毎月月初旬に行い、麻酔業務に関する知的教育と安全管理ルールの周知を図っています。また、積極的に学会や研修会にも参加してもらっています。
- ▶ 後期研修医教育：麻酔科医師として必要な最低限の基礎的な知識の習得を目指し、朝礼時に各担当医がレクチャーを提供しています。またミット制を導入しており、各症例についての問題点について文献上だけでなく上級医の経験も含め教育しております。
- ▶ 麻酔科専門医の育成：麻酔科医の専攻医制度に則った習得を必要とする、麻酔管理技術の研修をすべての後期研修医に施行しています。心臓血管麻酔や小児麻酔に関しては、連携病院の協力のもと研修を行なっています。また、専門医試験を受験する学年の麻酔科医には、過去の専門医口頭試験を想定した形で上級医が試験対策を講じています。

麻酔科は手術を受ける患者様に安心・安全な医療を提供すべく、日々進化する医療技術や新たな医学的知識習得に歩みを止めることなく、周術期管理としての手術麻酔や集中治療を行えるように日々研鑽を積んでいます。更には、疼痛管理としてのペインクリニックや緩和医療にも精通した万能型のエキスパートを育成すべく科として人材育成に努力をしております。